

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録
(グループホームかえで)

開催日時:令和7年8月28日(木)13:30~14:30

開催場所:野田市木間ヶ瀬 3162-1 グループホームゆりの木

出席者:

- ・ご利用者様 (A 様・B 様・C 様・D 様)
- ・ご利用者様家族 (E 様)
- ・地域の関係者 (F 様)
- ・経営に知見のある者 (G 様)
- ・福祉に知見のある者 (H 様)
- ・市町村の担当者 (I 様)

グループホーム職員 3名

会議内容

1. 開会
2. 自己紹介
3. 地域連携推進会議の概要説明
別紙要綱説明
4. 法人の概要とグループホームの取り組み
別紙資料参照
5. 利用者様からのご意見、ご要望
 - ・ B 様、ゆりの木の生活で楽しいことは？
→ジュース買ったり、コーヒーを買いに行く。洗濯洗剤を買うことのお手伝い。
 - ・ A 様、新しいしいのきになってどう？
→前は寒かった(以前のしいのきは古い建物)。今は過ごしやすい。
 - ・ C 様、ホームで自分のお部屋は誰が掃除しますか？
→自分です。(A 様:僕もやってる)
 - ・ D 様、写真がたくさん出ていましたが、この間どこに食べに行った？
→恥ずかしがり口ごもる(体づくりの頑張った結果としてコンビニでアイスを買ったり、この間はスーパーのフジヤで購入。「最高だよ！」と喜んでいた)。
 - ・ 5ホームのご利用者様のうち1名はコロナ感染のため不参加。

○G 様

当方は営利企業でホームを運営している。いちいの会のご利用者は重度の方が多い。社会福祉法人として多くの方を幅広く受け入れていることは素晴らしい。

→グループホーム職員

今、グループホームは、いろいろな方を幅広く受け入れるようになっている。一般の企業に就職しているような方もいれば、医療的ケアの充実したホームも増えてきている。

○I 様

支援度の高い利用者が多い中でも自立度、自由度の高い運営をされていると感じた。

今回の会議では、地域との関係性といったところを深掘りさせていただきたい。地域との交流の状況や隣の方との苦情やトラブル等の事例があれば教えてほしい。

→グループホーム職員

それぞれのホームのある自治体によって参加状況は違う。ポプラやもくれん・しいのきは資源ごみ当番があるが、他のホームではない。また、地域や学校とのかわりはない。

苦情についてはほとんどなく、挨拶やお話をしていると、近隣の方にご理解いただいていると感じる。

以前一人でグループホームの周辺を散歩していた利用者様が、小学校で児童と鬼ごっこをして遊んでいた。本人は「遊んであげていた」と思っていたようだが、一般の成人男性は、小学生と鬼ごっこはしない。見た目は成人男性なので、一部の子供から怖いと保護者に話があったようで、小学校から話があった。

○グループホーム職員

こういった会議があるということを自治体の方々にも知っていただきたい。こういった会議に参画をしていただきたい。行政と連携して、地域の方の理解が進むことを期待したい。

→I 様

自治会の負担も増えている中で、こういった会議を行うということがお願いベースになってしまう。また、ごみ出し等でもかわらないでほしいといわれるところもある中で、良い関係性ができていると思う。

○F 様

地域連携推進会議という言葉に魅かれた。いちいの会から手紙をいただいてぜひ参加したいと思った。

提案として、堅苦しくならないよう、写真等で紹介するような形でソフトムードのチラシ等を出すのもよいと思う。

いちいの会からのお知らせが郵便ポストに届いているが、回覧板で回してもよいと思う。いちいの会の活動の報告という形で周知してもよい。

ワークショップの存在は知っているが、中で何をしているかがわからなかった。今回参加した中でいろいろな話を聞いたので、より愛着がわく。地域の方に発信するしくみ(ソフトモードで)があれば地域の方も愛着がわくのではないかな。そうして数年たてば会議の参加者も増えるのではないかな。

グループホームが何件もあることも初めて知った。いきなり来てくださいますはハードルが高いが、まずは知る機会ができるだけでも良いので、周知を進めていけたら良いと思う。

○H 様

しっかりした会議でびっくりした。聞きたいと思ったのは、利用者の希望、要望があった場合、月1回等、話し合う場は設けているのか。

→グループホーム職員

定期的にこの日、というのは決めていないが、グループホームに職員が入った際に要望を聞いたり、写真等を使い選んでもらったりしている。また、コロナが落ち着いてきたことにより外食や外出する機会ができてきたので、これから増やしていきたい。

○H 様

当法人は月一回とかで、利用者の希望を聞きながら行っている。良い方法があれば模索していきたい。

○E 様

利用者の家族としての立場。子供に障害があると分かった時から親亡き後の不安を抱えながら生活していた。その中でワークショップに通うようになり、そこでもらう工賃でほしいものを買ったり、働く意欲をかなえてくれているので、親としてありがたいと思っている。

ワークショップの活動の中で、誕生日に職員とお昼ご飯(お寿司)を食べに行こうという取り組みがあった。本人もそれがとても楽しかった様子で、帰省した

際にも「お寿司食べる」、という言葉があり、楽しかった様子がうかがえた。親ができない経験をさせてもらえるのはありがたい。

くすのき祭があったころのように、地元の方に入ってもらえるのは良いことと思う。

グループホームに入る前、自宅から通っていたころの話だが、ある時コートに泥が付いていた。中学生が泥を投げつけていたことによるものだったのだが、それを本人は障害があるため報告できなかった。しかし、ご近所の方がそれを見てワークショップに報告してくださったことでその事実を知ることができた。

地域の方が見てくれていたからこそ分かったことであり、地域の方が見てくれている、気にかけてくれているということがとてもうれしく感じた。これからもお願いしたい。

6. 最後に

グループホームでの暮らしは今後とも続いていくこと。地域の方々や関係者の皆様のご理解、ご協力あって運営することができている。この場でなくとも何かあればお声かけいただきたい。

ありがとうございました。

7. グループホーム見学

G 様参加。

当日(8月28日);ゆりの木→ポプラ→しいのき→もくれん

※かえでは、コロナ感染対応中であるため後日。

10月14日;かえで